

やよい さいそうぼ
—ここには、弥生の再葬墓と
 じょうもん せきぼう こんせき
縄文の石棒をつくっている痕跡が
あるはずだ…

じめし きくちえいち こじん
 きっかけは地主の菊池榮一さん（故人）がみつけた
 ひとつのツボとつくりかけの石棒が、
 へいせい ねん おおみやまちれきしみんぞくしりょうかん とうじ
1995（平成7）年に大宮町歴史民俗資料館（当時）に
 きそろう
寄贈されたことに はじまります。



P30 ~ 31 の
 図の範囲

地中レーダー
 探査計測範囲
 2015(平成27)年
 5月25日～27日

ねんびょう
いずみ年表

きげんぜん せいぎ
 紀元前 5 世紀

きげんぜん せいぎ
 紀元前 4 世紀

きげんぜん せいぎ
 紀元前 3 世紀

きげんぜん せいぎ
 紀元前 2 世紀

BC600

BC400

BC300

BC200

← 縄文時代

弥生時代

前期

中期前半

中期後半

いずみさかした いせき
[泉坂下遺跡]
 いずみさかした じょうもん じだい ばんき
 泉坂下では縄文時代晩期の
 たてあなじゅうきよあと
 竪穴住居跡がみつまっている

ぜんき とき で
 前期の土器が出ている

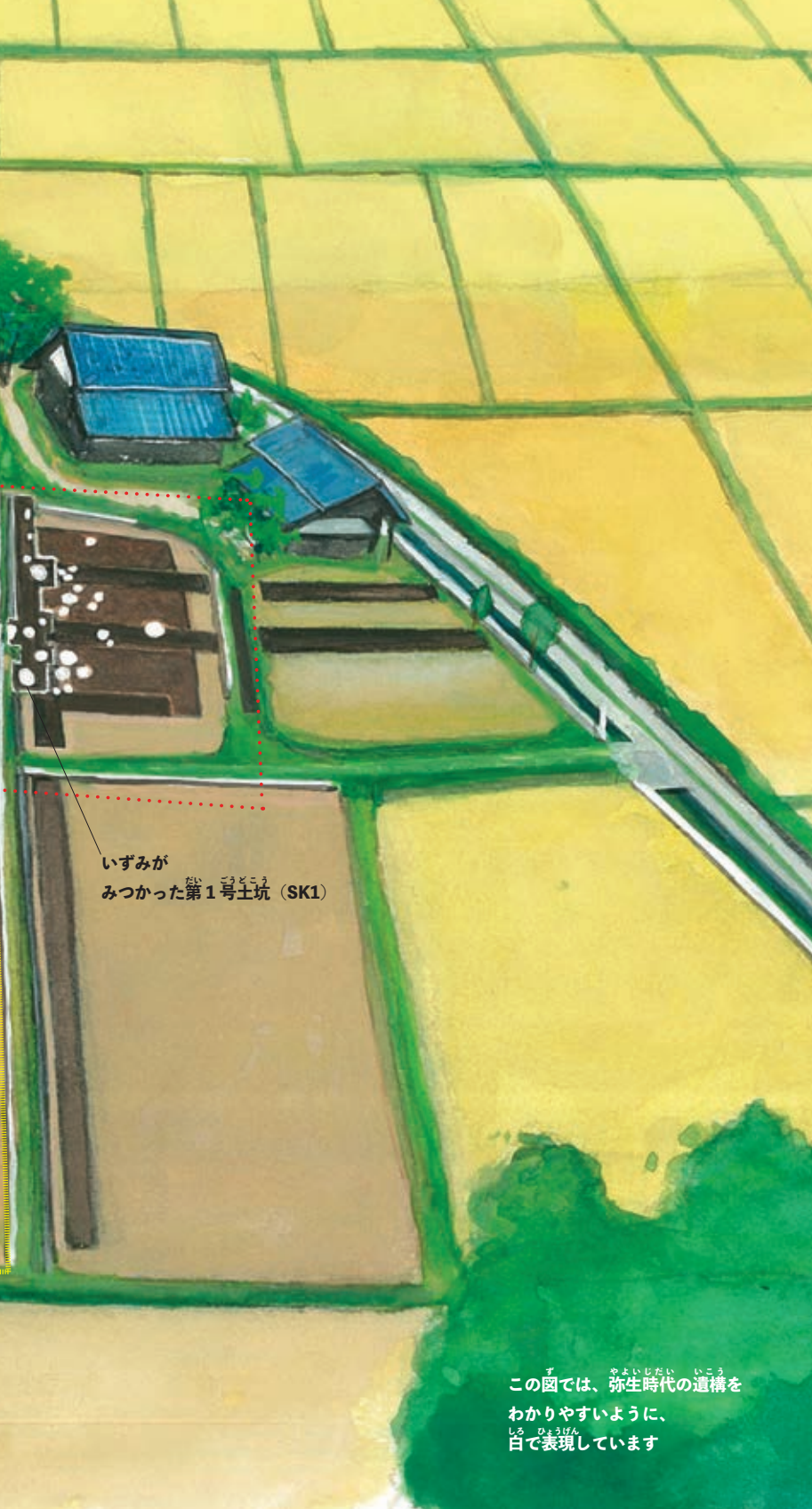
いずみさかした さいそうぼ
泉坂下の再葬墓

いずみさかした
 泉坂下では、この
 じき いこう いぶつ
 時期の遺構・遺物は
 みつかっていない

ひたちおおみや しな
[常陸大宮市内]

かせん ちゅうりゅういき いせき ぶんぶ
 河川の中流域に遺跡が分布

あかいわ いせき
 赤岩遺跡



みつかったばかりの「いずみ」(第1号土坑 土器1)

せきぼう けんきゅう じもと こうがくしゃ
石棒を研究している地元の考古学者・
すずきもとゆきし へいせい ねんけんきゅう
鈴木素行氏は、2006 (平成 18) 年研究の
ため仲間たちと発掘調査を行った。

そこでみつかったのが、たくさんのさいそうぼ
人面付土器いずみも、この発掘の初日にみつ
かったんだ。

きちょう いせき はっけん ひたちおおみやし
貴重な遺跡が発見されたので、常陸大宮市で
は2012 (平成 24) ~ 2015 (平成 27) 年、
きょういくいんかい せいせき
教育委員会によって遺跡のひろがりなどを
かくにん はっくつちようさ おこな
確認する発掘調査が行われたよ。

いずみが
みつかった第1号土坑 (SK1)

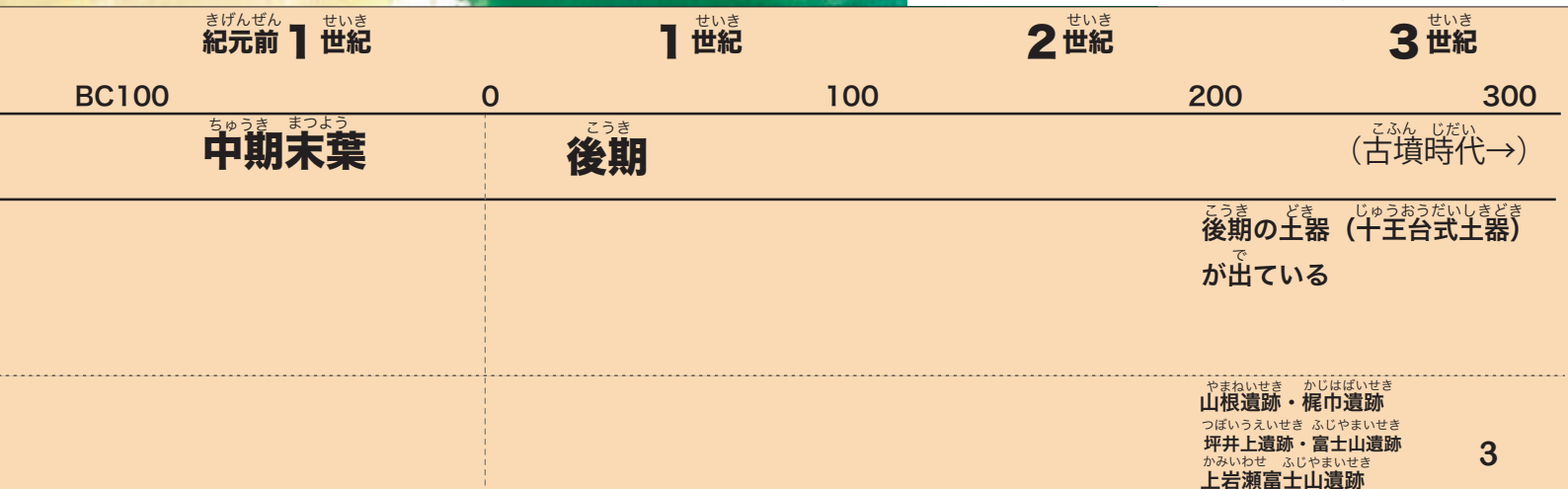
この図では、弥生時代の遺構を
わかりやすいように、
しろ ひょうげん
白で表現しています



いずみさかしたいせき
泉坂下遺跡の
報告書



くわ ほうこくしょ
詳しくは報告書をみてね!



いづみさかした

泉坂下ワールド

^{いま}「今から ^{ねん}2300 年ほど昔の、^{むかし}久慈川に ^{くじがわ}玉川が ^{たまがわ}流れこむあたり。^{なが}

^{しん}親せき ^{どうし}同士の ^{けん}1～4 軒ほどの ^{いえ}家が、

^{さんさい}山菜や ^き木の ^み実の ^{ほうふ}豊富な ^{しんりん}森林を ^{じぶん}自分たちの ^{なわば}縄張りとして ^{ちい}小さな

^{しゅうらく}集落をつくっています。」

こうはいしっち
後背湿地

やよいじだい くじがわ
弥生時代の久慈川の
りゅうろ
流路はわかっていない

た 田んぼはあったの？

いばらきけんない やよいじだい た あと ちようさけい いずみさかした いせきしゆうへん
茨城県内で、弥生時代の田んぼの跡の調査例はなく、泉坂下遺跡周辺

からもまだみつかっていない。

いずみさかした ひようめん あと
でも泉坂下のツボの表面には、モミの痕がついていたから、

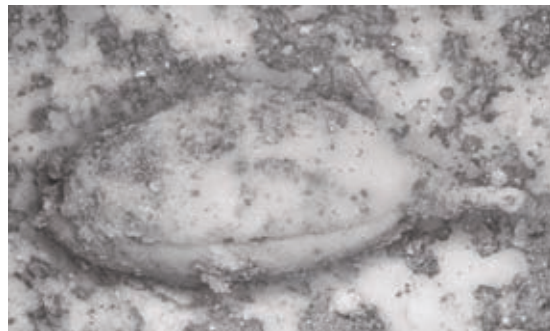
いずみさかした やよいじん し
泉坂下の弥生人はイネを知っていたことがわかる。

どき
土器をつくるとき、まわりにモミが散らばっていた。

…とするとやはりコメをつくっていたのかもしれない。

すいでん
水田をつくるとしたら、後背湿地だろうか？

かだい
これからの課題のひとつだ。



だい 26 号土坑の土器 10 に残っていたモミの痕。

くぼみにシリコンを流し入れ、型をとったもの。



オニグルミ



トチノキ



ムクロジ



だい 3 号土坑覆土よりイノシシ
頭部底部破片？がみつまっている



2006 年調査 II 区 II 層よりシカ
肢骨滑車部がみつまっている

だい 26 号土坑の土壌より、オニグルミ・ムクロジ・トチノキ・クリの炭化殻が多量にみつかった。

また、イネ・オオムギ・コムギ・ヒエ近似種・アサ・マメ科(ダイズ類?)の草本類の炭化種実もみつまっている。

いずみさかしたいせき 泉坂下遺跡って、教科書の弥生と違うみたい。

そうなんだ。教科書にある、銅鐸や鉄剣、水田稲作や高い建物はどうやら日本の限られた場所ではみられない。弥生文化はもっと地域ごとにバラエティーに富んだ文化なんだね。

ちなみに日本列島でいちばんはじめに「弥生時代」を迎えたのは、北部九州だよ。朝鮮半島や中国大陸とすごく近い地域だ。九州から遠い泉坂下遺跡は、教科書で習う「弥生時代」とは、ちょっと違うんだ。どう違うのか比較するために、全国のおもな弥生時代の遺跡の位置や遺物を紹介するよ。



韓国で発見された
北部九州産のツボ



板付遺跡（福岡県）の
水田跡に残っていた
足跡



佐賀県
詫田西分遺跡
出土人骨から弥生人が復元
されている

沖縄は
貝塚時代
がつづく

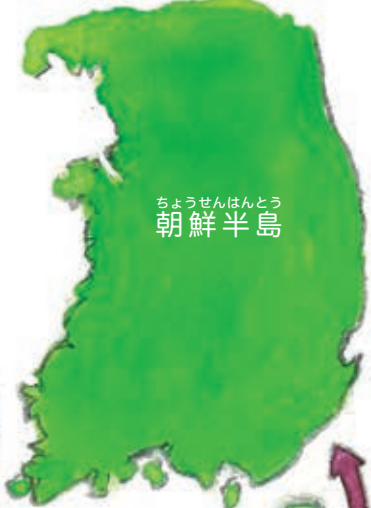
吉野ヶ里遺跡
（佐賀県）



イモガイ



イモガイのブレスレット 宮の本遺跡（長崎県）



朝鮮半島

交流がさかん



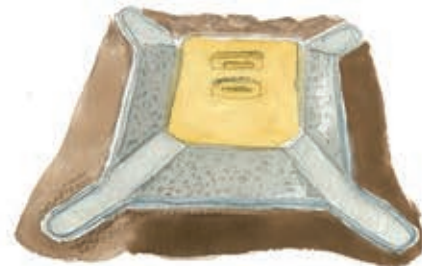
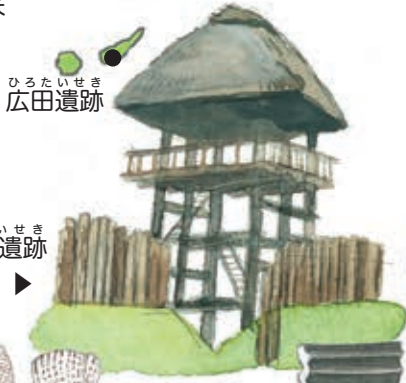
志賀島
（福岡県）で
発見された金印

菜畑遺跡

銅矛
塔ノ首遺跡
（長崎県）

板付遺跡（福岡県）
の炭化米

広田遺跡



西谷3号墳（四隅突出型墳丘墓）（島根県）
山陰や北陸のみでつくられた、ヒトデのよ
うな形の墳丘墓

妻木晩田遺跡

加茂岩倉遺跡
荒神谷遺跡

土井ヶ浜遺跡

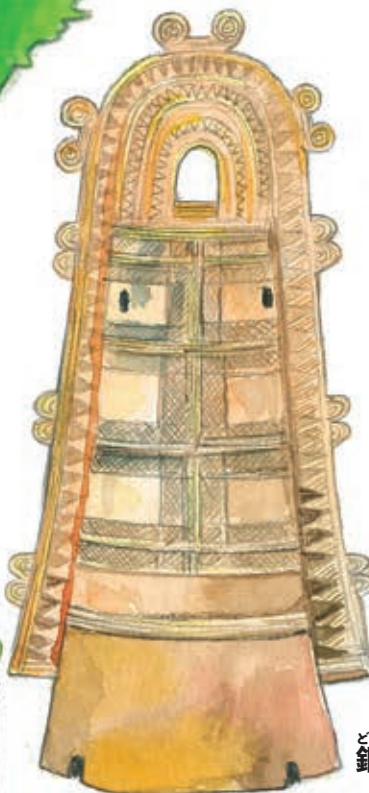
楯築遺跡

紫雲山遺跡

田村遺跡



唐古・鍵遺跡（奈良県）
の土器に描かれた、
高い建物



朝日遺跡（愛知県）

からみつかった土器

朝日遺跡では、敵からム
を守守るために、溝や柵
をめぐらせた上、さらに
とがった杭をたくさん
地面に打ち込んでいる

銅鐸
羽曳野市西浦出土（大阪府）

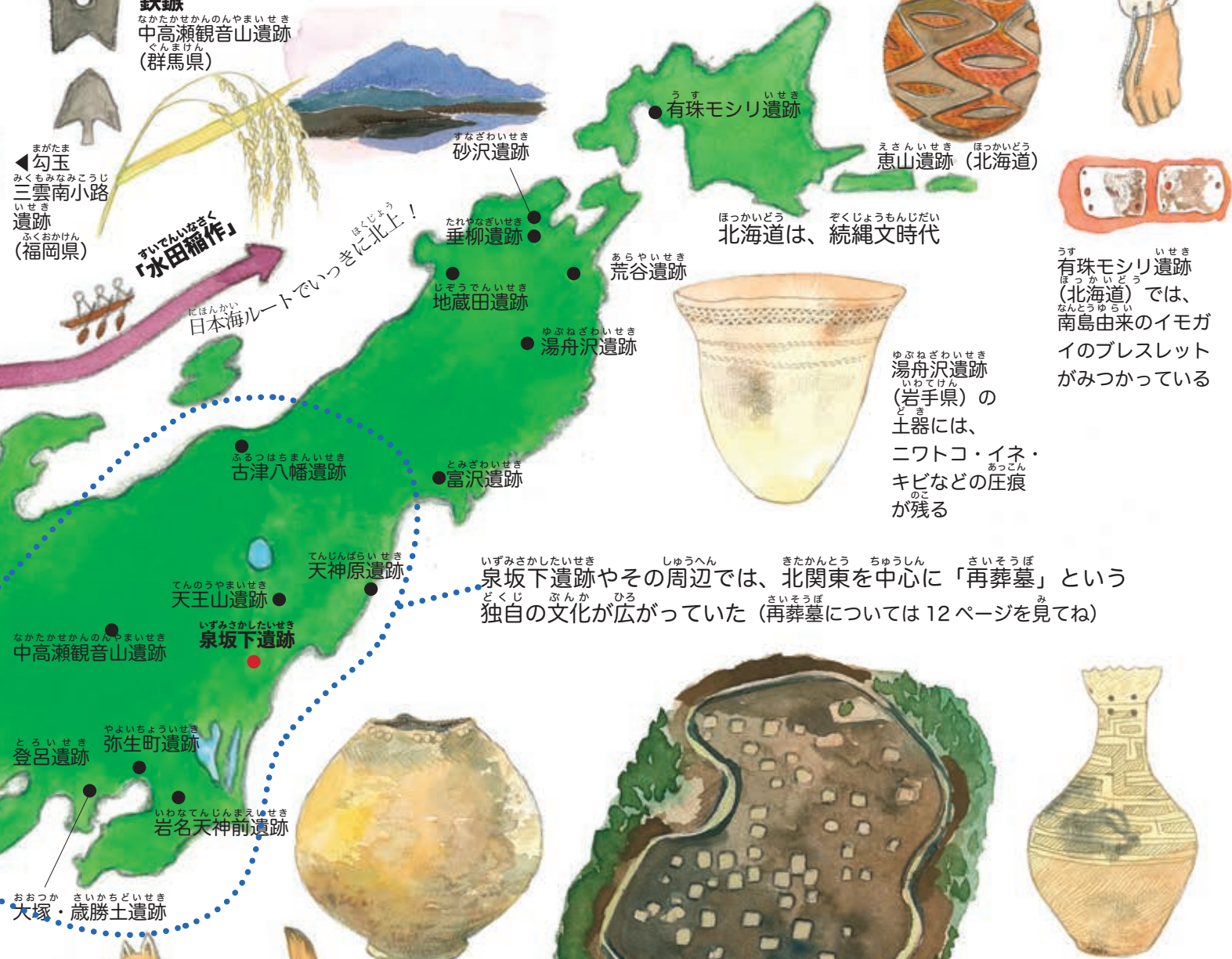
鉄斧
中国東北部でつくられた
（復元イメージ）比恵遺跡（福岡県）

やよいじだい 弥生時代って？：日本において、縄文時代に続く時代。次の時代は古墳時代。

てつぞく 鉄鏃
なかたかせかんのんやまいせき
中高瀬観音山遺跡
ぐんまけん (群馬県)

まがたま 勾玉
みくもみなみこうじ
三雲南小路
遺跡
ふくおかけん (福岡県)

すいでんいなさく 「水田稲作」
にほんかい 日本海ルートでいっきに北上！



うす 有珠モシリ遺跡
ほっかいどう (北海道) では、
なんどうゆらい
南島由来のイモガ
イのプレスレット
がみつまっている



ゆふねざわいせき
湯舟沢遺跡
いわてけん (岩手県) の
土器には、
ニワトコ・イネ・
キビなどの圧痕
が残る

いずみさかしたいせき 泉坂下遺跡やその周辺では、しゅうへん 北関東を中心に、きたかんとく ちゅうしん さいそうぼ 「再葬墓」という
独自の文化が広がっていた (再葬墓については 12 ページを見てね)



やよいしきどき やよいじだい
「弥生式土器」 「弥生時代」 の
由来になったツボ。
ゆらい
弥生町遺跡 (東京都)

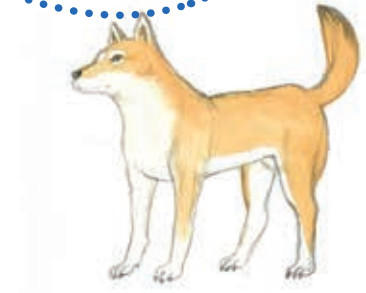


かんごうしゅうらく
環濠集落

おおつかいせき かながわけん
大塚遺跡 (神奈川県)
ちようけい 200 m、たんけい 130 m の濠の中に、時期は
こと 異なるが約 90 軒の竪穴住居跡と約 10 棟の
たかゆかそうこ みっしゅう みなみ
高床倉庫が密集、すぐ南に 25 基の方形周溝墓・
さいかちどいせき
歳勝土遺跡がある



いわたんじんまえいせき
岩名天神前遺跡
ちばけん (千葉県)
はじめて再葬墓が
かくにん 確認された遺跡
p12 参照



やよいけん かいとくん
弥生犬 「海渡君」
ほうけいしゅうこうぼ した
方形周溝墓の下からみつかった犬をもとに
ぶくげん しこくげん さんこう
復元。四国犬を参考にして
かめいせい おおさかふ
亀井遺跡 (大阪府)



ぼっこつ
卜骨
からと かがいせき
唐古・鍵遺跡
ならけん (奈良県)

やよいじだい 日本の中はバラバラにみえる。さまざまなスピードで、いろいろな文化がめまぐるしく変化している。発掘調査によって新しいことがどんどんわかってきている。だから弥生時代の研究はとってもおもしろい。まだまだ、わかっていないことがたくさんあるよ。稲作とか、青銅器の技術とか、教科書の「弥生文化」がどんな風に広まっていったか、今も研究が進められている。つまり、まだ弥生時代像は動き続けているんだ！ 近い将来、教科書が書き換えられるかもしれないね。

いばらきけんない 茨城県内の やよいじだい 弥生時代

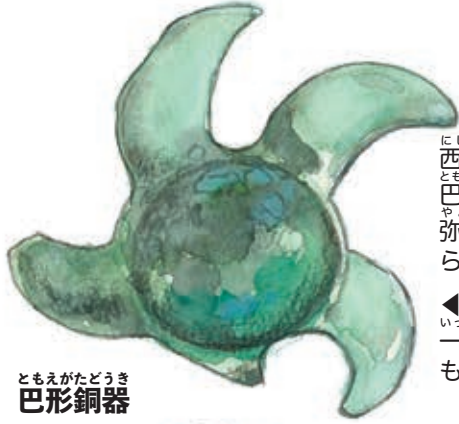
このページでは、^{いばらきけんない}茨城県内のおもな^{やよいじだい}弥生時代の^{いせき}遺跡を紹介するよ。
^{ほくぶきゅうしゅう}北部九州に約500年遅れて、^{ねんおく}紀元前4世紀ごろ、この地域では^{やよいじだい}弥生時代

がスタートする。

^{いずみさかした}泉坂下遺跡の^{さいそうぼ}再葬墓は、^{やよいじだいちゅうきぜんはん}弥生時代中期前半につくられている。

^{けんない}県内では何箇所も^{さいそうぼ}再葬墓がみつかっていて、そのうちの3遺跡は^{いせき}常陸大宮市内なんだ。

もしかすると、^{さいそうぼぶんか}再葬墓文化の中心地なのかもしれないね！



ともえがたどうき
巴形銅器

^{にしにほん}西日本でつくられる、^{ともえがたどうき}巴形銅器が県内で
^{やよいじだいごうき}弥生時代後期の住居跡等から
 みつかっている
 ◀^{みやだいらいせき}宮平遺跡（石岡市）
^{いっほんまついせき}一本松遺跡（大洗町）から
 もみつかっている



^{ともえがたどうき}巴形銅器のモデルは^{いしおかし}スイズガイと^{かんが}考えられている
^{こふんじだい}古墳時代には、^{たて}盾や^や矢を^{おさ}納める^{ゆざ}鞆の^{かざ}飾り^{かなく}金具に^{つか}使っている
^{さくらばいせき}桜馬場遺跡（佐賀県）^{さか}径約6cm



スイズガイ



おざかたいせき
● 女方遺跡

きたはらいせき
● 北原遺跡

はらだいいせきぐん
原田遺跡群 ●

みやだいらいせき
● 宮平遺跡

ねもと じんやしきいせき
根本・陣屋敷遺跡 ●

とのうちいせき
殿内遺跡 ●

きたきだいいせき
● 木滝台遺跡

どうぞく
銅鏃

ふなくぼいせき
船窪遺跡
（ひたちなか市）

いずみさかした やよいじん 泉坂下の弥生人はどんなイエに住んでいたの？

^{ざんねん}残念ながら、^{いずみさかした}泉坂下遺跡から^{やよいじだい}弥生時代の^{じゅうきよ}イエ（住居）の跡はみつからないんだ。
^{ほか}他の^{やよいじだい}弥生時代の^{いせき}遺跡を^{さんこう}参考に^{しょうかい}紹介すると、^{ゆか}床を^ほ掘りくぼめた^{たてあな}竪穴住居で、^ろ炉をつかっ
 ていたよ。将来、^{いずみさかした}泉坂下の人々の^{ひとびと}イエがみつかるといいね！

◀^{とろいせき}登呂遺跡の^{ふくげんじゅうきよ}復元住居と
^{ふくげんたかゆかしきそうご}復元高床式倉庫▼

^{はつくちようさ}発掘調査では、^{たてあな}竪穴住居跡は^ほ掘りくぼめられた跡しか^{みつ}つかない。
^{けんちくし}建築史家・^{せきのまさるし}関野克氏によって、^{いごう}遺構や^{しゅつどぶざい}出土部材
 をもとに^{たかどの}高殿や^{はにわ}埴輪、^{どうたくかいが}銅鐸絵画を^{さんこう}参考にし、^{いせき}はじめて^{たてもの}遺跡
 の^{ふくげん}建物が復元された。



◀^{たてあな}竪穴住居跡
^{ふじやまいせき}（富士山遺跡・
^{ひたちのおみやし}常陸大宮市）

いずみさかしたいせき 泉坂下遺跡は、

やよいじだい はか いせき 弥生時代のお墓の遺跡だ！

やよいじだい さいそうぼ
弥生時代には再葬墓だけじゃなく、
いろいろなタイプのお墓はかがつくられていた。
その一部を紹介するよ。お墓はかの変化は、
いちはぶ しょうかい ぶんか へんか
文化のちがいや変化へんかと考えられる。
だから、お墓はかの研究も弥生文化やよいぶんかの研究に
とって重要なテーマじゅうようのひとつなんだ。



再葬墓

【さいそうぼ】

やよいじだいさいそうぼ
(弥生時代再葬墓) ※

いちどどそう まいそう ほね
一度土葬などで埋葬し骨だけに
なった遺体を掘り出して、一部
をツポに入れて再び穴に埋葬す
る。穴には1～15個ほどのツ
ポが収められる。

じょうもんじだい ほか じだい
※縄文時代など、他の時代でも
再葬墓はつくられるので、こう

よぶこともある。

けんない ひたちのおみやし
県内では常陸大宮市の
いずみさかしたいせき おのてんじんまえいせき
泉坂下遺跡、小野天神前遺跡、
なかだい いせき ほか おさかたいせき
中台遺跡の他、女方遺跡
(筑西市)、海後遺跡 (那珂市)、

などがある。

にし あいちけん ひがし いわてけん
西は愛知県から東は岩手県まで
ひがしにほん ひろ はんい やく
の東日本の広い範囲に、約140
いせき ぶんぷ いばらき
遺跡が分布し、なかでも茨城・
とちぎ ふくしま けん おお
栃木・福島3県に多い。

ふくそうひん たまるい
副葬品として玉類。



土器棺墓

【どきかんぼ】

おおがた かめ ひつぎ どころ
大型の甕やツポを棺にし、土壌
に埋葬する。子供の墓こどもと考えら

れている。

あしあらいせき きたいばらきし
足洗遺跡 (北茨城市)、
ふじやまいせき ひたちのおみやし
富士山遺跡 (常陸大宮市)、
にしはらいせき つちうらし てんじんばらいせき
西原遺跡 (土浦市)、天神原遺跡
(福島県) など。副葬品として、
たまるい かいわ
玉類、貝輪。



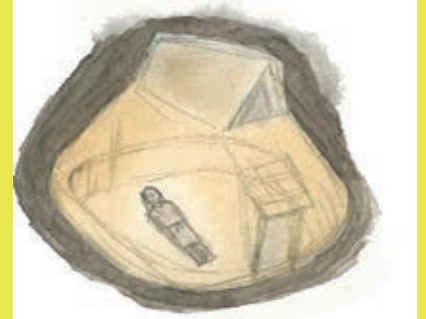
土壙墓

【どこうぼ】

つち ほ まいそう どころ
土を掘って体を埋葬する (土葬)

お墓。県内では、差洗遺跡 (ひ
たちなか市) で、列状に並んだ
どこうぼぐん
土壙墓群がみついている。

どこう ひょうき ふくそうひん
土坑とも表記する。副葬品とし
たまるい
て玉類。



屋内墓

【おくないぼ】

たてもの なか あな どころ ほ
建物の中に穴 (土坑) を掘っ
て、遺体を埋葬する。イエの床に
直接埋葬する場合もあったかもしれ
ない。

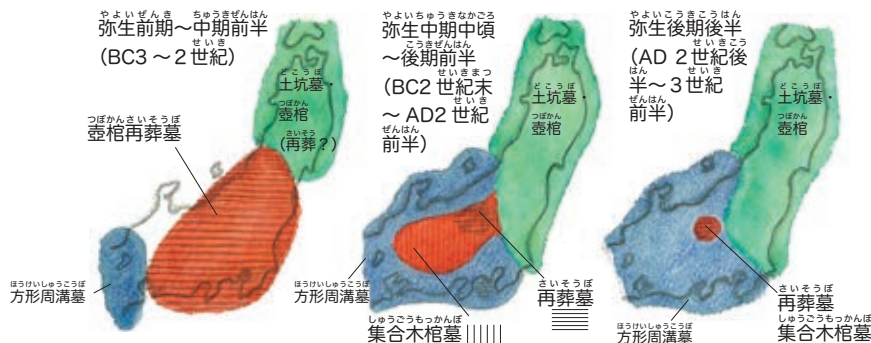
まいそう あと ひ
埋葬した後、イエに火をつけてもや
してしまう場合もある。

けんない いっぽんまついせき おおあらいまち
県内では、一本松遺跡 (大洗町) や
にのさわ いせき みとし おおどしもごう
二の沢B遺跡 (水戸市)、大戸下郷
いせき いばらきまち たかのすいせき
遺跡 (茨城町)、鷹ノ巣遺跡 (ひた

ちなか市) などに推定されており、
ながのけん えのきだいせきなど じんこつ
長野県の榎田遺跡等では人骨も
けんしゆつ
検出されている。

ふくそうひん たまるい いっぽんまついせき
副葬品として玉類、一本松遺跡で
ともえがたどうき ふくそうひん
は巴形銅器も副葬品と考えられる。

やよいじだい ちゅうきぜんはん
弥生時代中期前半、さ
かんにつくられていた
さいそうぼ
再葬墓もやがてつくれ
なくなる。なぜだろう。



ひがしにほんやよいじぜんはん
東日本弥生墓制の広がり
と
変遷
こくりつれきしんぞくほくぶつかんへん
(国立歴史民俗博物館編
1999『新 弥生紀行—
きた もり みなみ うみ
北の森から南の海へ—』
あさひしんぶんしゃ さくせい
朝日新聞社をもとに作成)



甕棺墓

【かめかんぼ】

せんよう おお かね いたい
専用の大きな甕に遺体をい
れ、口を合わせて埋葬する。
くち あ まいそう
合口甕棺ともいう。北部九州
あわせぐちかめかん ほくぶきゅうしゅう
でみられる。副葬品で剣などが
ふくそうひん けん
一緒に埋葬される。
いっしょ まいそう
さがけん よしの がり し
佐賀県の吉野ヶ里遺跡がよく知
られていた。
けんない
県内ではみられない。



支石墓

【しせきぼ】

きよせき もち はか ほくぶきゅうしゅう
巨石を用いた墓で、北部九州
でみられ、中心地は朝鮮半島。
ちゅうしんち ちようせんはんとう
ちゅうごくとうほくちく ひろ けんない
中国東北地区にも広がる。県内
ではみられない。
しせきぼ せつかん もつかん
支石墓の下には、石棺や木棺が
う ら かんぼ
埋められている。甕棺墓もある。



ちようせんはんとう カンファド しせきぼ
(朝鮮半島・江華島の支石墓)



方形周溝墓

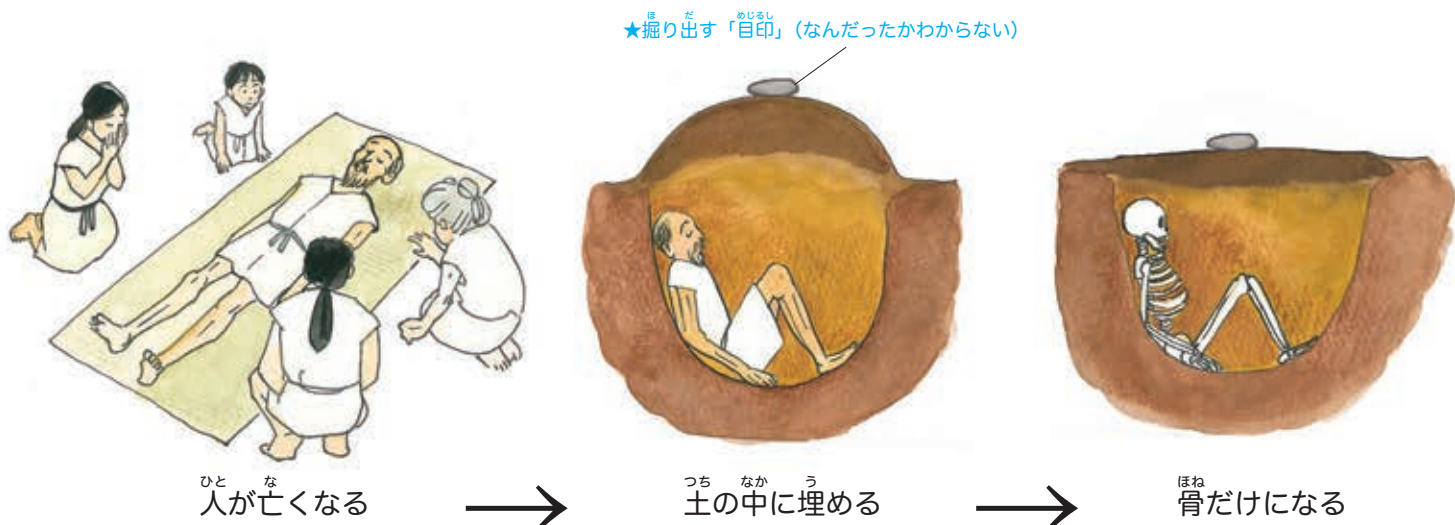
【ほうけいしゅうこうぼ】

しかく みぞ なか ひく つか
四角く溝をまわした中に低い塚
をつくり、中央に遺体を埋葬
ちゅうおう いたい まいそう
している。円形、前方後円形、
えんけい ぜんぽうこうえんけい
前方後方形の周溝墓もある。
ぜんぽうこうほうけい しゅうこうぼ
県内では、古墳時代にならない
けんない こぶんじだい
とつくりされない。瑞龍古墳群
ずいりゅうこぶんぐん
(常陸太田市) などがみつかって
ひたちおおたし さくせい
いる。



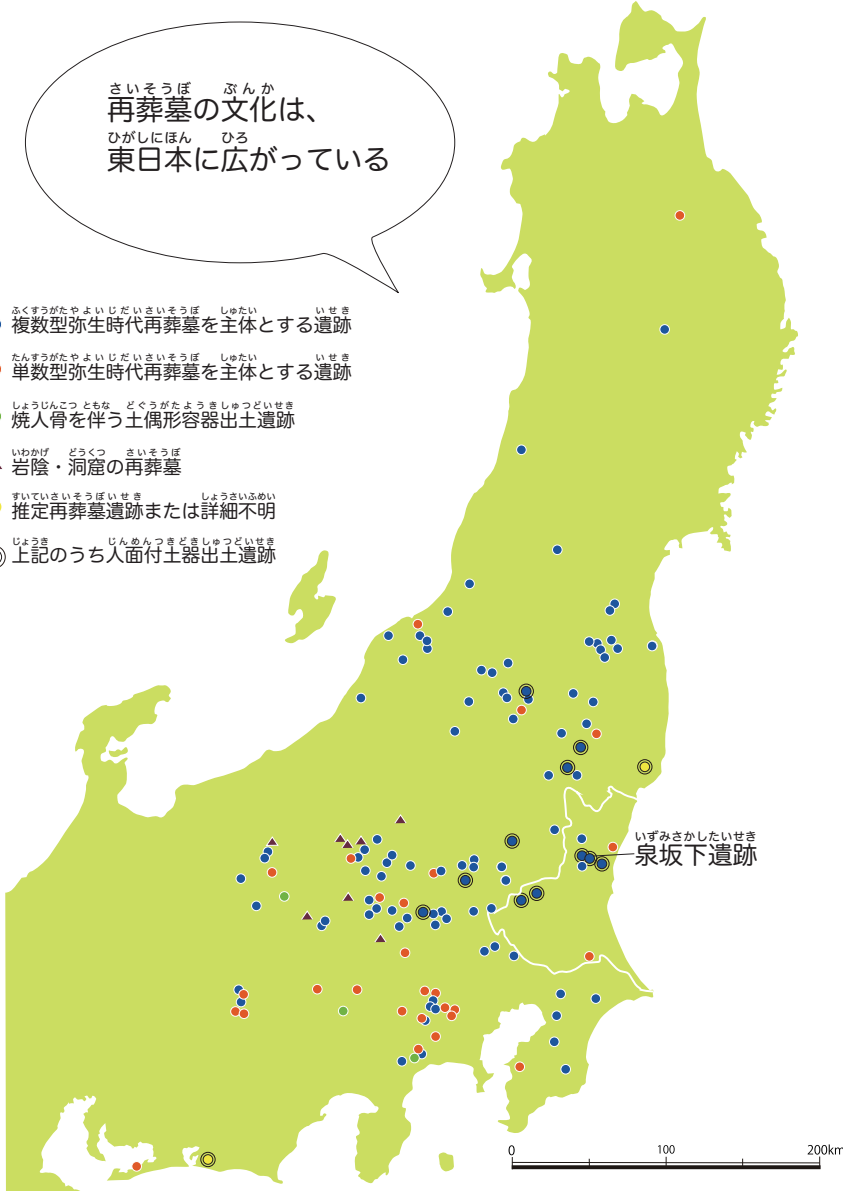
さいそうぼっていかいめい 再葬墓徹底説明！！

いちど埋葬し、骨になったご先祖さまを掘り出して、その骨をツボに入れ、いくつかのツボと一緒に再び穴へ埋める、これが再葬墓。再葬墓のつくられ方を想像してみました。



さいそうぼ ぶんか
再葬墓の文化は、
ひがしにほん ひる
東日本に広がっている

- 複数型弥生時代再葬墓を主体とする遺跡
- 単数型弥生時代再葬墓を主体とする遺跡
- 焼人骨を伴う土偶形容器出土遺跡
- ▲ 岩陰・洞窟の再葬墓
- 推定再葬墓遺跡または詳細不明
- ◎ 上記のうち人面付土器出土遺跡



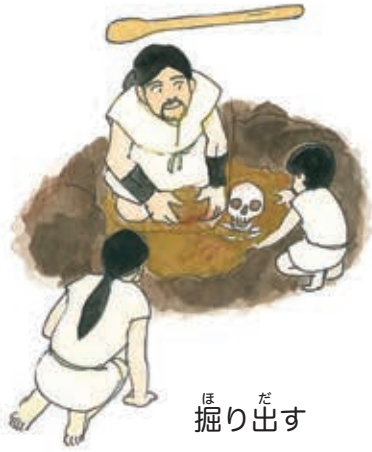
さいそうぼ 再葬墓 ストーリー

あな なか
穴の中にかくさんのツボを入
れている遺構が、さいそうぼ
いこう 再葬墓・お
はか 墓だということがわかったの
は、1963(昭和38)年明治
めいじ
だいがく 大学によって いわなてんじんまえいせき
岩名天神前遺跡
(千葉県)の調査が行われ、
ちばけん 千葉県 ちょうさ おこな
調査が行われ、
なか 土器の中から せいじんじんこつ
成人人骨が発見
されたことによります。

やよいじだいさいそうぼいせき ぶんぶ
◀ 弥生時代再葬墓遺跡の分布
したらひろみ 設楽博己 2008 『やよいさいそうぼ さいかい 弥生再葬墓と社会』 塙書房をベースに作成

「…死者が出ると人々は自分たちの祖先にゆかりの深い泉坂下の地に、墓穴を掘り、遺体を埋葬しました。…」

おまつりをする



ほりだす

★いつほりだすのかはわからない

このとき、
ツボで煮て
共食をした？

P19 参照



全部の骨を
入れるのでは
ないらしい

ツボに骨を入れる



穴を掘ってツボを埋める

★同じ穴に入れられるツボの関係はわからない
★ツボをねせて埋めるパターンと、
立てて埋めるパターンがある



★どんなおまつりが
わからない



★埋めた後は、土まんじゅうを
つくっていたかもしれない
墓標として木柱や石などがあつたかもしれない
泉坂下遺跡 第2号土坑、小野天神前遺跡 第2号
土坑、第15号土坑、第16号土坑、第18号土坑で
は、大きな石が検出されている

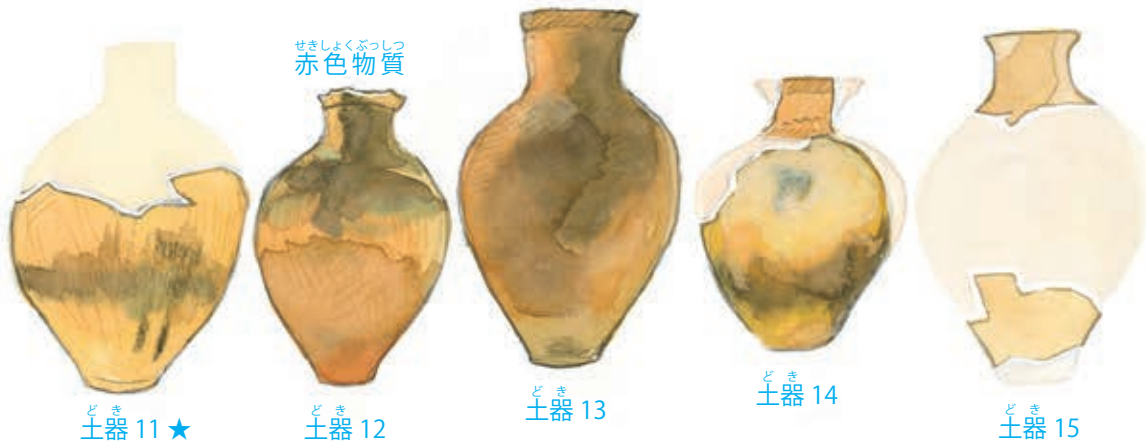
いずみさかした 53 ツボ

いずみさかしたいせき さいそうぼ さいそう つか
 泉坂下遺跡の再葬墓からは、再葬に使われた
 たくさんのツボが見つかったよ。取り上げたす
 べての土器の中の土を、水洗選別という方法で
 なに はい しろ
 何が入っているか調べたよ。

だい 1 号土坑 (SK1)



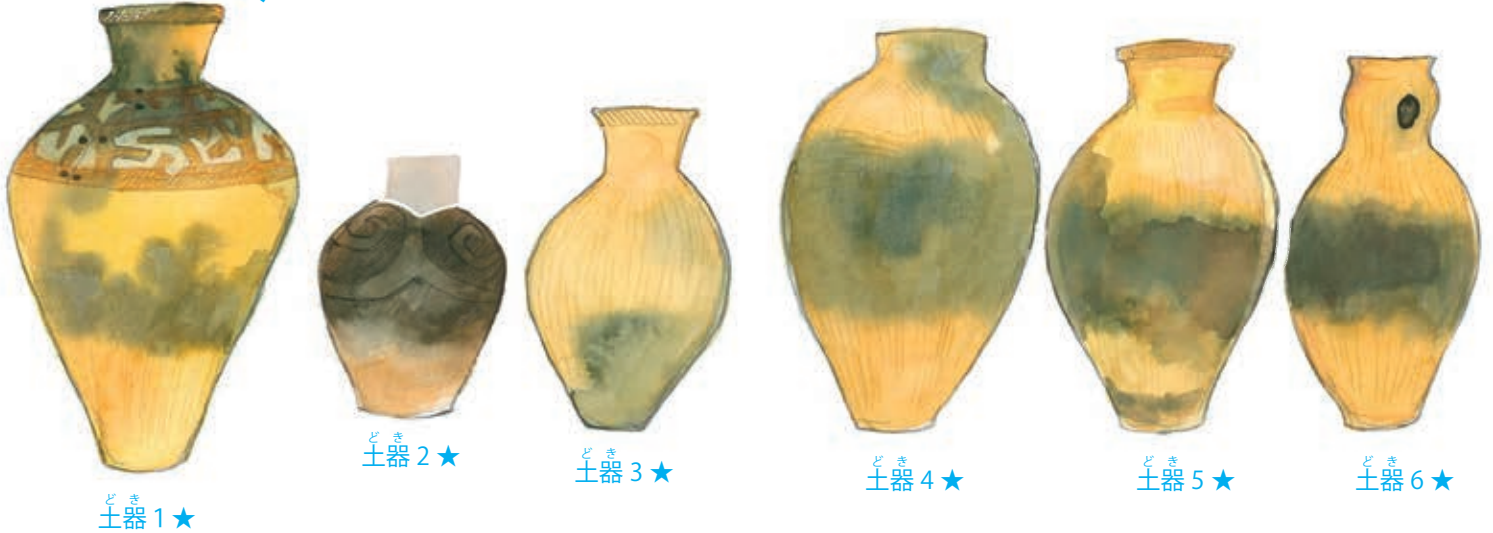
だい 2 号土坑 (SK2)



だい 3 号土坑 (SK3)



だい 4 号土坑 (SK4)

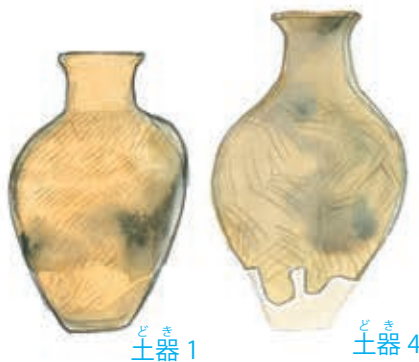


だい 6 号土坑 (SK6)

たまらい ばい
 玉類が入っていた



だい 1 号遺構 (SX1)



だい 26 号土坑 (SK26)

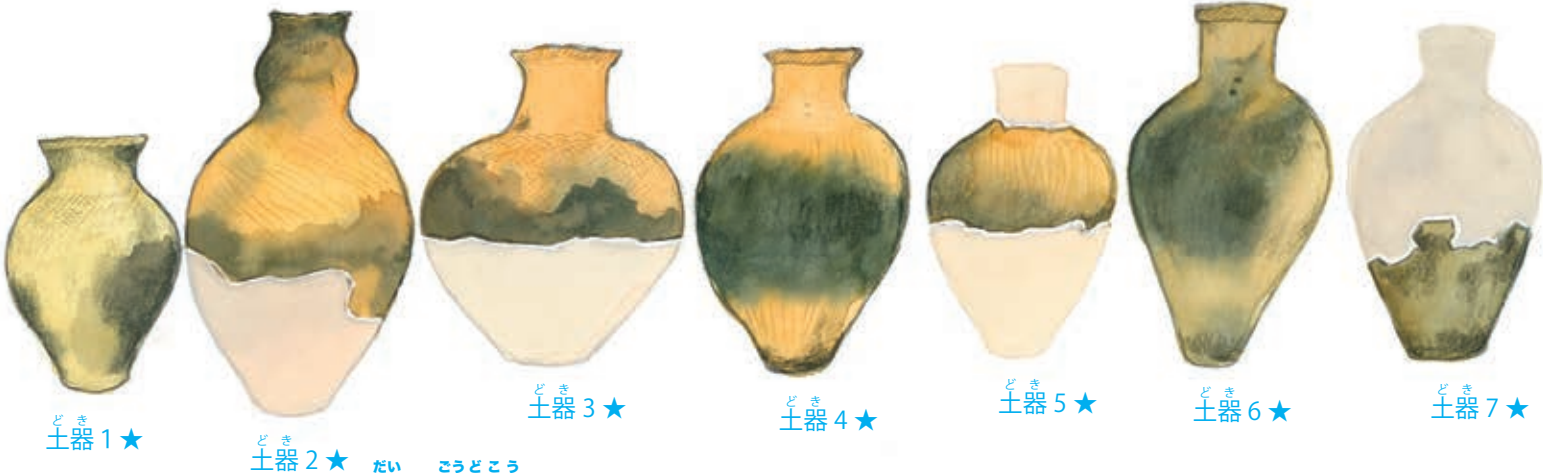


ツボは煮炊きに使っていた!

ツボをよく観察すると、外側にスス、内側にオコゲが

ついているのが多い。どうやら煮炊きに使っていたらしい。ふだんの調理には甕が使われていたはずなのに、なぜツボが?? 再葬前に、共食のまつりをしたのかな?

どうやら「骨壺」として、埋葬専用につくられたわけではない感じ。このオコゲやススからは土器のつくられた年代や何を煮ていたかなど、いろいろなことがわかる (★印は年代測定実施)。



第5号土坑 (SK5) 赤色物質→分析「パイプ状ベンガラ」



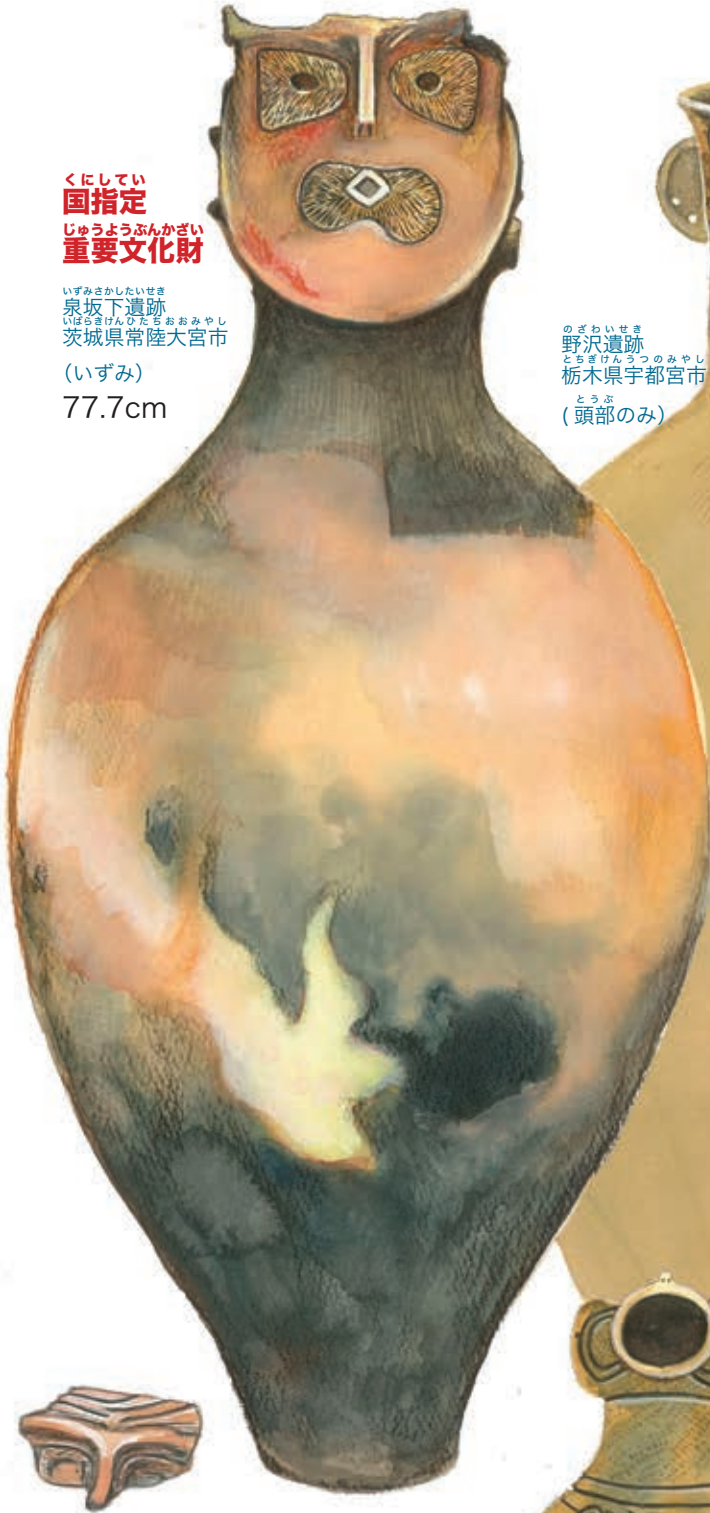
じんめんつきどき 人面付土器ラインナップ

ヒトのかおがついているじんめんつきどきは、めったにでてこない。さいそうぼからみつかったのは、14遺跡のうち17例だけ。だから、いずみはとっても貴重な存在なんだ！しかもいずみは全体がよく残っていて、その上顔のつくりがすばらしいよね。常陸大宮市ではいずみを含め、4つのじんめんつきどきがついているんだ。何か特別な地域なのかもしれないね。

くにしてい
国指定
じゅうようぶんかざい
重要文化財

いずみかしたいせき
泉坂下遺跡
いはらまけんひたちのおみやし
茨城県常陸大宮市

(いずみ)
77.7cm



のざわいせき
野沢遺跡
とちぎけんうつのみやし
栃木県宇都宮市
とうぶ
(頭部のみ)



くにしてい
国指定
じゅうようぶんかざい
重要文化財

いずるはらいせき
出流原遺跡
とちぎけんさのし
栃木県佐野市

21.6cm

おざかたいせき
女方遺跡
いはらまけんつくせし
茨城県筑西市

68.5cm



かくえいせき
角江遺跡
しずおかけんはままつし
静岡県浜松市
とうぶ
(頭部のみ)
※土偶形容器の
かのうせい
可能性あり



ふくしまけん
福島県
していじゅうようぶんかざい
指定重要文化財

とりうちいせき
鳥内遺跡
ふくしまけんいしかわまち
福島県石川町
とうぶ
(頭部のみ)



ばんじょうちいせき
番匠地遺跡
ふくしまけん
福島県いわき市
(人面部分のみ)

いばらきけんしていゆうけいぶんかざい
茨城県指定有形文化財

★3点とも

おのてんじんまえいせき
小野天神前遺跡
いばらきけんひたちなかおみやし
茨城県常陸大宮市

★3点とも

44.5cm

とうぶ
(頭部のみ)

このページのイラストは、
けつそんぶぶん
欠損部分もイメージで
ひょうげん
表現しています。

とうぶ
(頭部と、胴部
の一部のみ)

いばらきけんしていゆうけいぶんかざい
茨城県指定有形文化財

かいごいせき
海後遺跡
いばらきけん なかし
茨城県那珂市

42cm

ぼりよういせき
墓料遺跡
ふくしまけんあいづわかまつし
福島県会津若松市
とうぶ
(頭部のみ)

じょうしきめんいせき
上敷免遺跡
さいたまけんふかやし
埼玉県深谷市

47cm

ふくしまけんしていじゅうようぶんかざい
福島県指定重要文化財

25.3cm

たきのもりびーいせき
滝ノ森 B 遺跡
ふくしまけんいらかわし
福島県白河市

★左右とも

とうぶ
(頭部のみ)

ツボはどう使われた？

たくさんみつかった泉坂下のツボ。ふつうツボは穀物などのタネを保存するために使われると考えられているけれど、泉坂下のツボの多くには、ススやオコゲがついていて、どうやら煮炊きにも使われたみたい。どんな風に使われたか、想像してみよう。

かめ甕とツボ

ちょうり調理には、かめ甕が使われているとかんがえられている



かめ甕



ツボ

ツボはふつう貯蔵用と考えられているのだけれど...

貯蔵？

大切な穀物のタネが入っている？

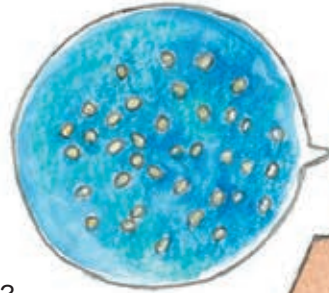
ツボが つくられる



だんせいじょせい男性女性どちらがつくっていたのか？
じつ実はわからない。



ロクロはつかっていない。
きはめ木の葉や布などを敷く。



これじゃあ食べられないよ

まいにち に た つか 毎日の煮炊きを使う？



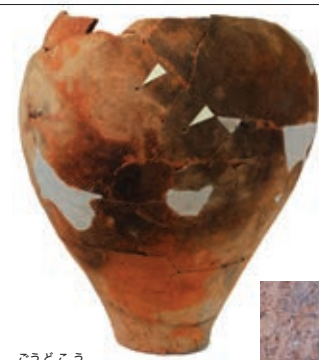
ツボを使うとくべつ特別な料理があったのだろうか？



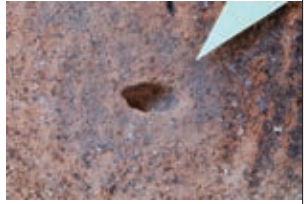
いづみさかしたせいき だい とうどうこう
 泉坂下遺跡の第1号遺構 (SX1) から
 みつかったかめ はへん も、じゅうようぶんかざい
 破片も、重要文化財だ
 (図は復元イメージ)。



だい とうどうこう
 第26号土坑 (SK26)



だい とうどうこう
 第26号土坑
 土器 10



**どき
 土器に「あと」が
 のこ
 残っている**

だい とうどうこう
 第26号土坑から
 みつかった土器 10のひょうめん
 表面に
 モミのあとがのこ
 残っていた (△の
 印がついているところ)



**タネを
 まく**

いづみさかした
 泉坂下では、どんなさくもつ
 作物が作られていたのだろう。
 そのしよくぶつ
 植物などを調べる方法として、土器にくっついてい
 る「圧痕」
 を型にとって調べる「圧痕レプリカ法」という方法があるよ。
 土器の表面や割れ口 (断面) をよーく観察すると、タネやムシの跡
 が空洞で残っている。そこに、シリコンを入れてみると、もともと
 の形がよくわかるんだ。その型から何のタネなのか、ムシなのか、
 顕微鏡で観察して調べるよ (写真の土器 10の圧痕のシリコン型は
 P5を見てね)。

コムギ、オオムギ、イネ、
 アサ、マメ? など

**さいそうぼ
 再葬墓のおまつりで
 にた
 煮炊きした?**

ツボの中のおコゲをしら
 べたら、
 きのみ どうぶつ ちようり
 木の实や動物を調理していたらしい
 ことがわかったよ。



みんなで
 いっしょ
 一緒に何か
 た
 食べたのかな?
 きょうしよく
 (共食)

さいそうぼ
 再葬墓のツボは、
 さいそう
 再葬のためにつくられると
 かんが けんきゆうしゃ
 考える研究者もいる。

**まいそう
 埋葬する**

